わくわく国際交流

深川国際交流協会　広報誌　Vol.32 2020.3

国際交流への注目と期待

深川国際交流協会　会長　北本　清貴

平成から令和になり、国内では外国人労働者の受け入れ拡大、東日本で台風大雨被害、消費税増税等が大きなニュースになりました。海外では米中貿易摩擦や中国を中心とした新型コロナウイルスの流行で各国に影響をもたらしています。

その様な中、２０１９年度当協会の各種事業が執り行われました。本年度は新たな取り組みが増え、青少年カナダ派遣では今回から市内の学校に通学していれば、市外在住者でも応募できるようになり、幌加内町から１名の団員参加が実現しました。これまでも市外在住の参加希望者の問い合わせはありましたが、市内在住者のみの参加資格だったため機会がありませんでした。今回から募集枠を広げる事で団員の充実に繋がると共に、市外にも深川市のアピールとなる狙いがあります。そして、この２週間のアボッツフォード市での活動は高い評価を得ましたし、団員の大きな成長になったと感じています。

９月には深川市のサポートを受け、地域で活躍している女性を中心とした訪問団のアボッツフォード市派遣を行いました。女性の社会貢献は海外の方が先進的であり、日本でも見習うべき所が多々あります。現地での活動では警察、病院、学校などでリーダーとして活躍している女性と交流し、新たな発見と見識を深めたと思います。また、新たな人脈が広がり、団員それぞれの活動に有益な財産として活用し発展できればと思います。

１１月では深川小学校からの依頼で「英語でトライ」にスタッフとして参加しました。「英語でトライ」は小学５，６年生を対象とした英語の授業で、外国人に英語で道案内をするという感じで、実用的な英語を体験する内容です。協会からは３名参加しました。今回の事が青少年カナダ派遣の団員募集に繋がればと期待しています。

２月には深川観光協会からの依頼で台湾からの修学旅行の高校生の民泊受け入れを行っています。昨年度も受け入れましたが、今回は昨年度の倍の約６０名が来訪し、日本への関心の高さが窺えます。一泊という短い滞在ではありましたが、雪遊びや日本食やショッピングで行動を共にし、お互いに親交が深まり良い交流が出来たと思います。

前述の様に外国人労働者の増加、小学校の英語必修、外国人観光客の増加などに伴い、国際交流が活発化しており、協会としての在り方が年々重要視されて来ています。これまでの経緯を踏まえ、協会会員、各関係団体ともに理解と協力を得て、有意義な交流へと発展できる様、尽力できればと願っています。

深川国際交流協会総会

2019.4.22（月）

　プラザホテル板倉にて深川国際交流協会総会を開催しました。総会では、2018 年度事業報告および決算報告、2018 年度監査報告がされました。また、2019 年度事業計画および予算が提案され承認されました。

　総会後には医療法人アンリーデュナン会のセラノ・ジョン・エバーさんに「ジープニー」についてのスピーチをしていただきました。

2019 インターナショナルデー

2019.6.5（水）

　今年は、会場を中央公民館に移し、小中高校生が、市内や近郊におられる外国の方々との交流を図る事をねらいとして、インターナショナルデーを開催しました。

　当日は総勢 91 名の参加者により開催されました。参加者それぞれが指定されたテーブルにつき、そこから交流が始まりました。17:00 開会、ALT、カナダ組、拓大留学生によるゲームが行われました。

Program

17:00　参加者の紹介
17:10　ALT のゲーム
　＊ NG Bottle Bowling
　＊ Simon Says
17:40　Team Canada のゲーム
　＊ Evolution Game
18:00　Break time
18:25　拓殖大学
　　北海道短期大学留学生のゲーム
　＊ Chinese culture quiz

　まず、ケビンによる「NG Bottle Bowling」。そして今年カナダ派遣の中高生 5 人による「Evolution Game」。いつものようにブレイクタイムを挟んで、拓大生による「Chinese Culture Quiz」が繰り広げられました。

どのゲームもチーム対抗なので、仲間と相談しながら、ボーリングやジェスチャーなどを楽しみました。そして 19:00 楽しく終了。

　いつもより広い会場でしたが照明に難があり、次年度に向けての課題となりました。

【国際交流協会　副会長　宮川　央子】

英語で遊ぼう

2019.6.29（土）

6 月 29 日(土)に『英語で遊ぼう』が中央公民館で開催されました。この催しはこれからの青少年カナダ訪問団の育成と事前体験を目的に小学 5･6 年生を対象で、深川市および近隣の ALT3 名、介護福祉研修生 2 名、青少年カナダ交流訪問団５名と関係者を含む総勢 21 名で行われました。

Program
10:00　ALT・介護福祉士研修生紹介
10:20　アイスブレイク
10:50　LET’S　COOKING　！！
12:00　昼食
13:00　ALT のゲーム
14:30　表彰式

『英語で遊ぼう』の主な内容は、青少年カナダ交流訪問団員がリーダーになり４つのグループに分かれ、日本ではあまり知られていないゲームを５つ行い、海外のお料理を作って食べて楽しむというものです。行ったゲームは『Evolution RPS』、じゃんけんを行い勝つ度に色々な動物に進化していくゲーム。このゲームでは勝ち進むにつれ色々な人と交流が増え、全員が打ち解けることが出来るゲームでした。2 つ目は『Candy Stacking』、このゲームはキャンディなどいくつかのお菓子を使って積み上げ、高く積んだチームが勝ちというゲームです。それぞれのチームが一団となることが出来ていました。3 つ目は『Tissue Box Dancing』、紐が付いたティッシュ箱を腰に付け、その箱の中にスーパーボールを入れ音楽に合わせ踊り、箱から全てのスーパーボールを出すゲームです。箱の中のスーパーボールを出すために必死になりつつも笑いあいながら行っていました。４つ目は『Simon Says』、ALT の指示に従いジャンプをしたり手を叩いたり、回ったりします。しっかり英語の聞き取りが出来ないといけないゲームにも関わらず、参加者は良く出来ていました。そして、遊びながらリスニング力もつきました。最後のゲームは『Gesture Games』、スクリーンに映し出されたお題を回答者以外でジェスチャーを伝えます。参加者全員がジェスチャーで回答者に伝えることは難しいにも関わらず、どのチームもとても上手に伝えることが出来、そのジェスチャーを見て笑い声がたくさん響きました。

参加者が楽しみにしていたクッキングは『Mac&Cheese』と『Smoothies』です。海外のソールフードを作って食べたことにより、尚一層、海外への関心や興味が深まりました。

毎年、違ったゲームやお料理を作って行われる『英語であそぼう』は、これからカナダに訪問する青少年交流訪問団員には緊張や不安を取り除き、期待を胸にカナダへの訪問へ送り出すきっかけとなり、そして参加者からは海外の関心が深まり、つぎへの青少年交流訪問団員への興味が深まったのではないでしょうか。

【派遣・受入交流部会　足立　沙耶可】

第21回 青少年カナダ交流訪問団派遣

2019.7.29～8.13

7月29日から8月13日までの日程で、青少年カナダ交流訪問団を青少年海外派遣事業としてカナダ・アボツフォード市に派遣しました。訪問団のカナダでの感想など詳細については、「青少年カナダ交流訪問団報告書」に掲載しています。

※活動の一部を深川市ＨＰや当協会ＨＰにも掲載しています。

日程	主な研修内容
7.29	バンクーバー国際空港へ
7.30	英語授業、ウェルカムランチ
7.31	英語授業、ホワイトロック散策
8.1	ヴィクトリア視察
8.2	英語授業、トランポリンパーク
8.6	英語授業
8.7	バンクーバー散策
8.8	英語授業、カルタスレイク
8.9	英語授業、送別会
8.12	帰国
8.13	深川到着

団員紹介
（▲前列左から）
山口 菜々子さん(深川西高校２年)
関口 遥香さん(深川西高校３年) サブリーダー
簑島 空乃さん(深川西高校３年)リーダー
轡田 慈音さん(一已中学校２年)
藤田 芽衣さん(深川西高校２年)
▲後列左から３人目
北本 清貴　会長(団長・引率)

青少年カナダ交流訪問団報告会＆国際文化交流パーティー

2019.10.26（土）

１０月２６日“青少年カナダ交流訪問団・市民姉妹都市訪問団報告会”と“国際文化交流パーティー”をラ･カンパーニュホテル深川で開催し、団員の保護者、学校関係者、ALT、拓大留学生、一般市民の方々等９３名が参加しました。

第一部は青少年カナダ交流訪問団・市民姉妹都市訪問団による報告会です。

青少年カナダ交流訪問団については、今年の訪問団のスローガンは、「EVOLUTION～進化～」。団旗は今までにはない両面仕様となっていて、表面にはパフォーマンスでよさこいを踊ったことから、「大漁旗」をイメージされたデザイン、裏面はカナダの国旗がデザインされていました。また、団旗には家族や友人からの激励

のメッセージ、アボツフォードで交流のあった方々からのたくさんの英語のメッセージが書かれていました。
各々が目標を持って挑んだ初めての海外での２週間のホームステイでの経験や印象に残った体験、思い出をたくさんの写真を使って、時には会場の笑いを誘いながら報告されました。
引率報告では北本団長が、「日本の良いところを再確認する」というテーマのもと活動したこと、各団員への評価について報告されました。

市民姉妹都市訪問団報告会では、「地域で活躍する女性の国際交流」をテーマとし、９月２９日から１０月６日の短い期間の中で、３０名を超えるアボツフォード等で活躍する女性たちと交流をしたことや、視察の内容についてコーディネートしていただいたエアードさんへの感謝の気持ち等について報告されました。
※「青少年カナダ交流訪問団報告書」、「市民姉妹都市訪問団報告書」に団員メンバー全員のカナダでの感想等が掲載されています。一部の内容については、深川市ＨＰや当協会ＨＰにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。
報告会に引き続き「国際文化交流パーティー」が開かれました。ビュッフェスタイルのランチを楽しみながらＡＬＴ、拓大留学生など、参加者の約４割占める外国籍の方々を含む参加者同士が交流し理解を深める国際色豊かな催しとなりました。
今年のアトラクションは音楽を通して交流を図ってもらおうと深川中学校の岡田智英教頭先生、奥様の美香様に演奏会をしていただきました。ピアノとクラリネットのハーモニーが会場に響き渡り楽しく和やかな雰囲気に呑まれました。

国際交流協会を市民のみなさんに知っていただく事業として、今後も内容を工夫しながら開催していくことを考えております。また来年に期待してください。

【深川国際交流協会　理事　阿部　みどり】

アボツフォード市で活躍する女性との交流
～市民訪問団姉妹都市派遣を終えて～

2019 年（令和元年）9 月 29 日から１０月 6 日までの 8 日間、市民訪問団として姉妹都市であるカナダブリティッシュコロンビア州アボツフォード市を訪問させて頂きました。

今回の訪問はこれまでの「6 年に一度の公式訪問団」として実施されていた市同士の公式交流とは異なり、地域交流に特化した訪問団派遣となりました。

「地域で活躍する女性の国際交流」をテーマに深川商工会議所、きたそらち農業協同組合、深川青年会議所、深川国際交流協会から推薦頂いた女性 5 名の団員で視察交流して参りました。滞在期間中 30 名のアボツフォード市で活躍する女性達とお会いし、生い立ち、教育、キャリア、そして未来についてお話を伺いました。一人一人会う度に新鮮な感動と共感が積み重なっていきました。カナダのお国柄の文化が影響しているリアルな女性の生活を聴く機会などまず得られるものではありません。毎日が興奮と情報で頭もお腹も一杯になりました。

その中で共通して繰り返し聞き印象に残った言葉が、volunteer（ボランティア）equality（平等）diversity（多様性）sustainable（持続可能な発展）です。アボツフォード市の女性達は学生時代から多くのボランティアに関わり人と繋がり、人生や仕事に影響を受けています。多種多様な民族が集まる移民の国であり、平等や多様性を受け入れ、環境を意識した経済の持続可能な発展への意識が高いと感じました。現地での友人も増え、いくつか新しい交流の計画を話すこともできました。

深川市と長く交流のある Aird Flavelle 氏と奥様の Sheila さんが今回のプログラムを計画してくださいました。このような貴重な体験ができたことを心から感謝しております。感謝の気持ちをご夫妻に何度も伝えましたが、その都度「こうして話を聞かせてくれないか、と知人達に頼めるのもボランティアを通して繋がっているからなのだ」とエアード氏はボランティアの意義を私たちに伝えてくださいました。

現地での貴重な経験を通じて得た事を深川市の為に考え行動ができるよう努めてまいります。このような機会を頂きましたことを関係者各位に心より感謝申し上げます。

【国際交流協会　理事　定岡　統美】

台湾からのお客さま

2 月 12 日～13 日、台湾の「台中市立中港高級中学」の学生 4 人のホームスティを引き受けました。市と深川観光協会が促進する台湾からの修学旅行生受け入れに

国際交流協会も昨年から協力しています。来深したのは 32 名。5 泊 6 日の 1 日目に深川でホームスティを体験し、その後道内をめぐる教育旅行だそうです。

12 日夕方、新千歳空港からバスで生きがい文化センターに到着。我が家にホームスティしたのは 15 才 16 才の可愛らしい女子学生達。羊肉と刺身が食べられないとの情報をもらっていたので、娘達によく作っていた「ちらし寿司」と「お好み焼き」を用意しました。夕食の準備は 4 人を巻き込んで、炊き立てのご飯に寿司酢を混ぜるところからめ、お好み焼きはホットプレートで各々に焼いてもらい皆でトッピングです。

この度の教育旅行のコースは香港、沖縄、大阪もあったそうなので、北海道へ来た理由を尋ねると「異文化交流」「コミュニケーション」と答え、続いて「お母さんは専業主婦ですか？」と質問されました。食事をしながら家族の事、学校の事等、英語と（週 6 時間、3、4 年英語を学んだとのこと）スマホアプリを使いながら会話を楽しみました。4 人の 1 人が日本語 4 級の語彙集とプリントを持参してきていて、後半はさながら日本語の勉強会のようになり、夜が更けました。

翌朝は慌ただしく朝食を済ませ、名寄高校生との交流へ行く準備。「寒いけど日本の学生のように今日はスカートです。」と制服を着て身だしなみを整え車に乗り込みました。北海道にしては暖かい朝でしたが、吐く息が白いのが楽しいらしく 4 人はハアハアと息を弾ませながらはしゃいでいました。

生きがい文化センターでお別れの会をして、関係者皆が手を振って見送る中バスは名寄へ向けて出発して行きました。あっという間の短い滞在でした。彼等の目に日本の家庭はどんな風にうつったでしょうか。その後くれたラインの最後に「再開期待」とありました。

【深川国際交流協会　副会長　上垣　由紀子】

賛助会員のご紹介

当協会を支援していただいて賛助会員の中から、掲載のご了承をいただいた会員を五十音順にご紹介します（当協会ホームページでも掲載しています）。

掲載をご希望される賛助会員の方はご連絡ください。

医療法人アンリー・デュナン会	協立測量設計株式会社	㈱倉本道新販売店
㈱しまの	神竜土地改良区	多度志土地改良区
寺岡工務株式会社	ヒロノ株式会社	深川市役所
深川青年会議所	深川土地改良区	

異文化が共生できる街

人は皆、生まれ故郷を持っている。そこには両親、兄弟姉妹、友人たちがいて、その人たちに囲まれて成長していく。故郷での生活は、心地よく安心感がある。そこで働き、家庭を持ち、生涯をそこで過ごす人も多い。

しかし、世の中にはそうした心地よい生活に区切りをつけて、あえて異文化社会に身を投じ、さらなる飛躍を求める人もいる。これは、勇気のいる大きな挑戦だ。7年前から我が深川市にやってくるようになったフィリピンからの青年たちにとっても、異国日本、そして北海道深川での生活は、大きな挑戦であったに違いない。

フィリピンからやって来た青年たちにとって、日本語修得、第一病院、エーデルワイスでの介護の仕事、不慣れな日常生活等、新しい環境での生活は、不安や驚きの連続であったと思う。

深川国際交流協会が、医療法人アンリーデュナン会で働く外国人研修生の日本語修得に協力をし始めてから7年が経過した。その間、我々協会会員が日本語授業を担当したフィリピン人研修生は、10人以上にもなり、その全員が初期の目標をしっかりと自覚しながら、着実に成長している姿にはいつも敬服させられる。

これまで、この活動が順調に歩んでこられたのは、何よりも受け入れ法人がフィリピンの研修生たちの学習時間をしっかりと確保し、法人の専門職員による指導体制がしっかり確立していたからだと思う。介護福祉士資格試験に向けての周到な指導とそれに応えてきた研修生の頑張りが、高い合格率達成につながっていることは間違いない。

私たち国際交流協会がこの活動に協力するに際して強く意識していたことは、彼らの日本語修得にできるだけ協力することはもちろんのこと、外国からやって来る若者たちが日本人社会の良さを知り、自らの文化を大切にしながら、快適な毎日が送れるよう協力することであった。

私たちは、進んでフィリピンの若者たちと深川市民とのパイプ役になろうと心がけてきた。我々が企画するイベントとか会合にはできるだけ参加を促し、そこで、彼らの文化を深川市民に紹介する機会をもうけてきた。また、会議などを開催する際には、度々、そこにゲストスピーカーとして招き、日本での体験や、フィリピン現地の事情を紹介する機会を設けてきた。

今、私たちの国は、空前の労働力不足に直面している。企業は外国人労働者の確保のために血眼（ちまなこ）になっている。しかし、外国人労働者を安定的に確保するためには、何よりも、異文化で育った青年たちが心地よく生きていける温かく、優しい快適な生活環境を整えることが肝要と考える。深川は、これから異国からやって来た若者を優しく受け入れる町であって欲しいと願っている。

【深川国際交流協会　理事　小瀧　聰】